

THE ROTARY CLUB OF NAGOYA-CHIKUSA



WEEKLY

なごや ちくさ

題字 黒野清宇

名古屋千種ロータリークラブ
 承認 1982年 8月24日
 例会日 火曜日 12:30
 毎月最終例会 18:00
 例会場 愛知厚生年金会館
 事務局 TEL763-5110 FAX763-5121
 会長 和田正敏
 幹事 田部井良和
 会報・雑誌委員長 宮尾紘司

No. 16

ロータリー2000：活動は一堅実、信望、持続

ROTARY 2000：ACT WITH CONSISTENCY, CREDIBILITY, CONTINUITY

1999～2000年度 RI会長 カルロ・ラビッツァ

きょうの例会

第827回 平成11年11月9日(火)

講演 名古屋市環境基本計画
 一人・まち・自然の調和—
 名古屋市環境保全局
 環境管理室長 矢野 秀則氏
 (紹介 大口君)

先週の記録

第826回 平成11年11月2日(火) 晴

◆“君が代”“我等の生業”

◆出席報告

会員 70(67)名 出席 49名
 出席率 73.13%
 前々回 10月19日 (修正出席率) 100%

◆ビジター紹介 4名

◆ゲスト紹介

米山奨学生 ウディン・エムディ・ザイール君
 (株)御園座 経理部長 渡辺 久男氏

◆ニコボックスは紙面の都合上、次回掲載と致します。

田部井幹事報告

1. 本日例会終了後、理事役員会を開催致しますので理事役員の方は2階橘の間にお集まり下さい。
2. ロータリーの友11月号とガバナー月信がきておりますので、お帰りにお持ち下さい。

和田会長挨拶

介護保険については、今だ不透明な事が多い。亀井静香政調会長は、「親を介護する子供が尊重される社会にすべきだ」と、介護保険の抜本見直しを提唱した。それに対して一部の福祉関係者などから、家族を介護地獄から救ってやるのが介護保険で、家族(とりわけ女性)を介護にしばりつけておくという旧来の発想のまま、との抗議があった。

亀井氏の指摘はこの保険の立案段階からあったようだ。介護保険ができたとしても肉身の介護を他人の手にゆだねるのを好まず、献身的な介護を続ける人たちは必ずいる。このような「家族介護」を介護保険の中でどのように位置付けるかという指摘が社会保障の専門家から出ていた。家族介護者は保険料をとられながら家族愛だけを支えに、身体が不自由な肉親の面倒をみるしかない。

千葉県野田市は、昨年の在宅要援護高齢者実態調査から、ホームヘルパーのサービスを受けたいという回答が23.4%にとどまり、四人に三人以上が家族介護を望んでいることがわかった。他人にオムツを換えてほしくない、家族のほうがかたがたいらないなどの理由であった。しかも現在家族介護者向けに支給している「寝たきり老人福祉手当」が厚生省の指導で打ち切りになるようだ。野田市は来年四月から介護保険への現金給付を始めようと計画している。この計画は過疎地など限定された条件以外は現金給付を認めない介護保険に水をさすと思います。

ドイツの介護保険は家族介護も介護の柱と位置付け、現物給付(ホームヘルパーなど)と現金給付の併用・選択を認めている。

現金給付を認めると虚偽の要介護申請が増える、現金をもらって後はほったらかしの家族もでる、といった反論もある。しかし現物だけというのは、いかにもお仕着せという再反論もできる。

何よりも、支給された現金で家族が新しい布団に換えてやる、老人の好物を食べさせてあげるといのも立派な介護ではないか。

99年10月27日の中日新聞では、①介護保険料徴収凍結 ②在宅で介護している家族に「介護手当」を支給する。民主党の菅直人氏は「愛情は家族、サービスは社会が提供するのが制度の理念だ」と反発した。

介護保険などに携わる我々医療関係の人にも理解できない制度が動き始める前から、政府がこの様では、ただでさえ不透明な制度はますます国民に不安感をつのらせるばかりです。国もはっきりして欲しいと考えます。

◆講演

“出雲の阿国とはいかなる女性だったか”

(株)御園座 経理部長 渡辺 久男氏



歌舞伎の起源は、今から約400年前、出雲大社の巫女オクニが、京都北野神社でややこ踊りを踊って大ヒットを飛ばした事から歌舞伎元年と考えられている。

オクニのその生涯については、定説がないので私なりに資料に基づいて判明した範囲でお話させていただきますと、まず名前について、オクニとはどういう字で書かれるのか解らないと思いますが、阿国が最も一般的に通っていると申し上げるにとどめさせていただきます。出雲大社では神前で舞い神に代わってお告げを喋る巫女・神楽巫女と、臨時に雇われる歩き巫女(神社・仏閣が資金集めに行く興業の為に雇われる芸人)とがあり、オクニは後者に属するものでした。出生についても佐渡島とか京都周辺の村(北出雲)だとか諸説がありますが、出雲市にあるオクニ財団は次のような見解をとっています。

オクニは出雲市大社町の中村という地名のところに住んでいた宮鍛冶職“中村三右衛門”という人の娘で成長し三九郎という男性と結婚し子供をもうけた(性別・人数は解らない)というのが真実に近い情報である。一般にはオクニの華やかな面としてとらえられているのが、芸能面の師として名古屋山三が挙げられますが、私の結論としましては、交遊・夫婦関係は在りません。と申しますのは山三は実在の人物で、天性の美男子といわれた人物だが、31才の時に刃傷を起こして相手の井戸宇衛門という侍と相討で二人とも死んだ西暦1603年の年にオクニは京都でややこ踊りを踊ってデビューしています。ややこ踊りは即ち少女の踊りですからこの時30才になっていたとは考えられません。加えて山三は落ちぶれたとはいえ元は立派な武士、オクニは全国流浪の遊芸人、これらのことを考え合わせれば二人は世に云われるような関係にはなく二人の噂は小説的フィクションであり山三が歌舞伎を指導したなど後生の作り事、むしろオクニに最も影響を与えたのは別の人物で当時第一級の文化人であり京都北野天満宮の最高実力者、松梅院(北野天満宮の社務一切を取りしきっていた)の院主、^{禪昌}禪昌。

オクニはこの禪昌と人間として意気投合したようでその親交ぶりは当時大きなスキャンダルとして騒がれた程です。又、ビッグスポンサーとなった芸能好きの女院、新上東門院(後陽成天皇の生母)も禪昌の仲立ちによる

ものといわれています。女院の御所で踊ったり将軍家康の前で踊ったりと、当時のトップクラスと接していたことは事実ですが、所詮は旅回りの女遊芸人。遊芸人でも特に女性の場合は当時舞台一筋で生きていけるような甘い社会環境でなかったゆえ、芸を見せた後は酒の席に招かれ一夜を共にするというのがお定まりのコースで興味深いことにこれは若造と呼ばれる若い女形(男性)も同じで、『江戸名所記』によれば「近ごろの若造どもは名ばかり傾城にて人をたぶらかして物を盗るを本とす」とあり大変低い地位に在ったことが解る。

オクニが踊ったといわれた念仏踊りも本来は空也一遍らによって始められた宗教的なものですが、当時は民衆に密着して勢いを伸ばしていた宗教を巧みに芸能に結びつけたところが当たったものであり荒唐無稽だナンセンスだといわれながらも歌舞伎が今日まで続いてきたのは、元々芸術性の追求という事よりも好みに合わせて大衆を楽しませ、庶民と共に歩んできたためであり、歌舞伎はこの原点を絶対に忘れてはいけないと思います。

皇室、貴族という不氾濫のようなパトロンを持った舞楽・雅楽、武士階級という強力なスポンサーに支えられた能に比較して特定の支持層を持たなかった歌舞伎はどうしても庶民階級の懐具合を充てにせねばならず、時には大衆に迎合してまでも生きていかねばならないという経済的宿命を負っていました。こういう背景のもとに歌舞伎が低俗性、娯楽性を強く持つ結果になった事は紛れもない事実であります。

洋の東西を問わず世界に演劇の種類は数多くありますが、歌舞伎ほど理屈ぬきに目と耳と心を楽しませるために磨かれた演劇はないのではないのでしょうか。やっぱり芝居の楽しみは美しい役者の声・姿・形・調子の良い名ゼリフ・豪華な舞台そして心から楽しませる一流の音楽……。帰りには粋な料理屋か縄のれんで人生謳歌しておつ一杯！これです。

現在、邦楽を初めとした伝統芸能には家元制度・世襲制・徒弟制度など改善されたとはいえまだまだ古い因習が残っており、善し悪しは別としてそれがネックになっていることも事実です。

しかし、それぞれの国は長い歴史の中で積み上げてきた、いわば文化の結晶とも言える独特の音楽なり舞踊を持っており、現在ではどちらかといえば西洋風のミュージカルが主流で日本古来の音楽・舞踊・演劇はややもすると風化しがちですが、ワールドアートとして世界の芸能又は人類共通の資産として平等な価値観を持って光を当てるといふ事も必要なのではないでしょうか。

◆次回例会 (11月16日)

講演 “名古屋市のごみに挑む”

中部リサイクル運動市民の会

代表 萩原 喜之氏

(紹介 大口君)